ロートエキス・アネスタミン散

確認試験(4)の項を次のように改める.

確認試験

（４） 本品30 gを共栓三角フラスコにとり，水100 mLを加え，30分間振り混ぜ，直ちにガラスろ過器(G3)を用いて吸引ろ過する．フラスコ中の残留物はろ液を用いてろ過器に移し，ろ過器上の残留物を強く押し付けながら吸引ろ過する．ろ液75 mLを300 mLのビーカーに入れ，薄めた硫酸(1→3) 10 mLを注意して加える．この液にブロモクレゾールグリン試液0.2 mLを加え，液が緑色から黄緑色に変わるまでよくかき混ぜながら希硫酸を滴加する．冷後，この液を分液漏斗に入れ，ジエチルエーテル／ヘキサン混液(1：1) 25 mLずつで2回よく振り混ぜて洗い，水層を別の分液漏斗にとり，アンモニア試液を加えて弱アルカリ性とし，直ちにジエチルエーテル30 mLを加えてよく振り混ぜる．ジエチルエーテル層は塩化ナトリウム飽和溶液10 mLずつで2回洗い，ジエチルエーテル層を分取し，無水硫酸ナトリウム3 gを加えて振り混ぜ，脱脂綿を用いてろ過する．ろ液を蒸発乾固し，残留物をエタノール(95) 0.2 mLに溶かし，試料溶液とする．別に薄層クロマトグラフィー用アトロピン硫酸塩2 mg及び薄層クロマトグラフィー用スコポラミン臭化水素酸塩1 mgをエタノール(95) 1 mLに溶かし，標準溶液(1)及び標準溶液(2)とする．これらの液につき，薄層クロマトグラフィー〈*2.03*〉により試験を行う．試料溶液，標準溶液(1)及び標準溶液(2) 10 μLずつを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする．次にアセトン／水／アンモニア水(28)混液(90：7：3)を展開溶媒として約10 cm展開した後，薄層板を80 ℃で10分間乾燥する．冷後，これに噴霧用ドラーゲンドルフ試液を均等に噴霧するとき，試料溶液から得た2個の主スポットは，標準溶液から得たそれぞれの黄赤色のスポットと色調及びR_f値が等しい．